



議会レポート 平成28年4月号 特集・小中学校統廃合問題

山武市民の皆様、市議会議員の八角公二でございます。
昨年平成27年4月の市議会議員選挙におきましては多くの市民の皆様のご支援を賜り、現在3期目の議員活動を続けております。

さて、現在山武市で小中学校統廃合の議論が進んでいることをご存知でしょうか？
今年になって教育委員会から「基本計画（案）」というパンフレットが配布されましたが、それを読んで驚かれた方も少なくないと思います。

私は平成28年3月の本会議において、この問題について一般質問を行いました。その結果浮き彫りとなった問題について、市民の皆様にお伝えしたいと思います。

Point 1 学校の閉校はどの様に決められたのか？

～計画案発表の10ヶ月前に決定していた成東中学校の閉校～

- 平成28年1月に教育委員会が配布したパンフレットによれば、
- ①平成27年2月に「山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本方針」の**素案**を策定
 - ②**素案**に基づき市内各地で「意見を聞く会」を開催
 - ③「意見聞く会」などで寄せられた市民の意見を踏まえ、平成27年11月に**成案**を策定
 - ④**成案**を基に、平成28年1月に「山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画（案）」**計画案**を策定と説明されています。

素案、成案では成東中学校と成東東中学校は統合することが望ましいとされていましたが、統合後の学校の位置を東中とし、成東中を閉校とすることはどこにも示されていません。「成東中閉校」は**計画案**で初めて示されたものです。

パンフレットの説明が正しいければ、このような重大な決定をわずか3ヶ月の間に行ったこととなりますが、嘉瀬教育長は

「平成26年4月から平成27年3月20日までに行われた協議会（注：市長部局との）で決定した」と答弁しました。

ところが、**平成27年3月18日の教育委員会会議録では、成東中は存続して建て替え、東中は適正規模を図る**という報告が確認されています。また、平成27年3月7日から15日の間に実施された素案に対する「意見を聞く会」においても、「成東中学校閉校」という案は示されていませんでした。

嘉瀬教育長の答弁が正しいとすれば、**「成東中学校閉校」という重大決定が平成27年3月18日から20日の間のわずか2日で行われた事になり、その決定には市民の意見は全く反映されていない事になります。**また、平成27年3月20日の協議会で決定していたとすれば、**教育委員会は11月の成案策定の際に成東中学校閉校の方針を明記しなかった事になります。**



山武市の計画案では市の中心部から中学校が消滅します。

嘉瀬教育長の議会答弁は、成東中の閉校が市民不在のまま教育委員会と市長部局で決定された事を示しています。

*「意見を聞く会」「説明会」は、成東中閉校の方針を示さずに実施されました。

計画案が議会で発表され、初めて成東中閉校の方針が明らかにされました。

パンフレットは議決前に配布

素案策定

成案策定

計画案発表

議決

実際には計画案発表の10ヶ月前に成東中閉校は決定していました。

この間、市民には決定を伝えず

*教育委員会会議で可決

協議会（教育委員会・市長部局）開催

成東中閉校決定 *嘉瀬教育長議会答弁より

平成26年4月

平成27年2月 3月20日

11月25日

12月11日

平成28年1月20日

Point 2 老朽化した校舎の建て替えは不可能なのか？

～保護者・住民からの建て替え要望署名は黙殺。オリンピックキャンプ招致には6億円。～

昭和38年に建設された成東中学校の校舎は老朽化が進んでいます。そのため、平成27年4月24日に校舎建て替えの要望書が保護者や地域住民ら702名の署名と共に提出されました。

今回の計画案で成東中が閉校とされる理由として、校舎建て替えに伴う財政負担が大きい事が挙げられていますが、一方で**山武市はオリンピック・パラリンピック事前キャンプ招致事業で、成東運動公園整備に4億5,273万円、その他費用として1億6,318万円、計6億1,631万円の予算案**を示しています。



スリランカ選手団のために4億5,273万円もの公金を投じて整備される成東運動公園

これについて椎名市長は

「地域的な感情ではなく、市のあり方として統合しなければならないので学校は減らす。成東地域の方々だけの考え方で質問されても、十分に満足してもらえない話はしにくい。」

と答弁し、直接的な回答を避けました。

また、「駅に近く通学手段の多い学校を残し、まちづくりや教育的配慮、小中一貫校の新設なども考慮して10年先を見越した計画にするべきではないか？」という提案については

「その提案であれば、**成東と松尾の問題としてとらえるなら、成東中学区から交通の便も良く立派な校舎のある松尾に通って貰うのが正しい選択**となる。」

という見解も示しました。

児童数の減少に伴う小中学校の統廃合は、避けて通れない課題であることに間違いはありません。しかし一方で、小中学校は地域の絆やまちづくりの基点としての側面も持ち合わせています。

合併から10年余りで減少した山武市の人口は約6,800人。合併時の約59,000人から実に11.5%の人口が失われています。

このような状況で行う小中学校統廃合は、子供たちの教育環境のみならず山武市の将来も見据えたものでなければ

なりません。その点、現在山武市と教育委員会が進めようとしている基本計画が、本当に現在と将来の子供たち、そして山武市のために最善の計画であるかは疑問です。

八角公二は今後も市議会議員として、山武市で生まれ育った一人の市民として、この問題に取り組んで参ります。

* 議会議事録は山武市HPで公開されています。

また、成東・さんぶの森・松尾の各図書館と蓮沼公民館でも閲覧出来ます。

前期計画：平成28年度～平成37年度

「山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画（案）」より

①豊岡小学校と松尾小学校の統合

- ・ 統合後の学校の位置は松尾小
- ・ 松尾小校舎解体・新校舎建設
- ・ 豊岡小改修→まつおこども園

④蓮沼中学校と松尾中学校の統合

- ・ 統合後の学校の位置は松尾中
- ・ 蓮沼中閉校後の跡地利用は未定

②日向小学校と山武西小学校の統合

- ・ 統合後の学校の位置は山武南中
- ・ 2校閉校後の跡地利用は未定

⑤成東中学校と成東東中学校の統合

- ・ 統合後の学校の位置は成東東中
- ・ 成東中閉校後の跡地利用は未定

③山武中学校と山武南中学校の統合

- ・ 統合後の学校の位置は山武中
- ・ 山武南中は統合日向小学校に

前期計画予算：**約40億円**

(スクールバス運行経費は除く)

* 「山武市財政状況（計画）」より試算



愛宕台から成東中・成東駅・大富小を臨む

熊本県多良木町では、学校を廃校にした結果人口流出が起こったため、廃校した学校の校庭に住宅を建てて若い世代を呼び込み、学校を再開したそうです。

市の中心部から学校が消える事の意味は、単に見慣れた景色が変わるだけではありません。子育て世代にとって住みにくい町となれば、現在わが市が直面している急激な人口流出に拍車をかけ、深刻な衰退を招く結果となりかねない事を、この事例は暗示しているのではないのでしょうか。

今の山武市に必要なのは、学校を減らす事より、いかに子供を増やすのかという事です。限られた財源は、地域衰退を招く学校の統廃合より、地域発展に繋がる少子化対策にこそ優先的に振り向けて行くべきではないでしょうか。